

は、施設の実情に応じた医師と医療安全管理者との役割分担や業務遂行に必要な権限の明確化、研修の実施等が必要であると考えました。今後も医療の場における患者安全確保に貢献できるよう、教育・研究活動に邁進したいと思います。

支部学術集会開催報告

第28回静岡県支部学術集会

学術集会会長：静岡県立静岡がんセンター副院長
寺島雅典

2023年8月5日に沼津市プラサヴェルディにおきまして第28回静岡県支部学術集会を開催しました。今回はテーマを「コロナのパンデミックを通じて学んだ病院の危機管理対応」とさせていただき、シンポジウムとして、藤枝市立総合病院事業管理者の毛利博先生の御司会のもと、ふじのくに感染症管理センター長後藤幹生先生、静岡県立静岡がんセンター感染症内科部長倉井華子先生、富士市立中央病院野田靖人先生、藤枝市立総合病院中村利夫先生、浜松医療センター海野直樹先生から御講演を賜り、討論を実施しました。また、特別講演として、H.R.C.代表の堀池真臣様から、「医療従事者の有事の事業継承」と題して御講演を賜りました。更に一般演題として16題の演題の応募を頂き、発表並びに質疑応答を行いました。合計で、106人の参加があり、コロナのパンデミック以降久しぶりに盛況裡に会を開催することができました。

第19回高知県支部学術集会

学術集会会長：社会医療法人近森会近森病院院長
川井和哉

昨年は新型コロナウイルス感染の蔓延のために、Web形式で開催された本会は、今年には2023年8月27日(日)に、近森病院



会場風景

の担当で、スタッフ一同のご努力のお陰で、対面の学術集会が9:00~17:15まで、開催されました。場所は高知市文化カルポートで、2会場のもとに、参加人数335名が集まり、一般演題81題、特別講演は、鴻江寿治(鴻江スポーツアカデミー代表)先生の「東京オリンピックソフトボール金メダルは いかにしてもたらされたか~チーフトレーナーの視点から考える健康とは(鴻江理論)~」について、色々な所作や道具を用いら

れて、面白可笑しく講演されました。また県内の16の病院から、それぞれ座長を選出頂きました。さらに昼食時には、2題のランチオンセミナー:①『ICTを活用した新しい医療連携~脳卒中から地域を守る~』と②『医療DXを実現した地域医療の新たな形』が開催され、参加者は退屈する時間もない程に充実した時間が、瞬く間に過ぎてしまいました。

第18回広島支部学術集会

学術集会会長：広島赤十字・原爆病院病院長 古川善也

2023年9月2日(土)に広島赤十字・原爆病院東棟9階講堂にて、第18回広島支部学術集会を開催しました。当日



会場風景

は、Zoomによる同時配信も行い、会場61名、オンライン34名の計95名の方にご参加頂きました。

今回は、特別講演として吉田学先生(多摩大学医療・介護ソリューション研究所客員教授、前厚生労働事務次官)をお招きし、「2040年を展望した医療の姿:3課題と医療DX」をテーマにご講演いただきました。

また第二部のパネルディスカッションでは、「人材育成とチーム医療」をテーマに、広島市民病院長の瀬良栄子先生より看護師の人材育成について、県立広島病院の越智一秀先生よりメディカルクラークの人材育成について、広島赤十字・原爆病院の阿登智宏先生より人事課における人材育成について、呉医療センターの藤田秀樹先生より薬剤師における人材育成について、ご講演をいただきました。

開催にあたってご協力くださった関係各位の皆様には心より感謝申し上げます、開催の報告とさせていただきます。

第13回新潟県支部学術集会

学術集会会長：新潟県済生会三条病院院長 坂内均

2023年9月9日(土)に第13回新潟県支部学術集会を開催いたしました。



会場風景

シンポジウムは「在宅医療をスムーズに行うために」をテーマに、基調講演と県内5施設から